

<実施事業所 報告>

「謙虚に」「素直に」「前向きに」常に
相手の立場に立って物事を考えること
が出来る人材育成を目指して！



「受入れ事業所：部品製造業」

1. はじめに

当社は 1948 年に建設業を主な事業として設立致しました。その後、鉄工業に進出し、1955 年に八幡製鐵株式会社（現 新日鐵住金株式会社）が山口県光市に光製鉄所を設置されたことに伴い、製鉄関連機械の部品製作や補修に注力しはじめました。以来、約 60 年に渡り、お客様のニーズにおお答えすることこそ我々の使命との認識の元事業を営んで参りました。

当社は、中小企業の特徴である、機動性、柔軟性、迅速性を活かし、これまで取り組ませて頂いた課題解決の実績・経験・ノウハウを活用し、お客様にとって価値あるサービスとベストの提案を行っております。近年は、熟練技能者、最新鋭の設備と IT 化に代表される新技術との融合を行うことで、ワンストップで超短納期な補修・製品供給サービスを加速させています。

2. 受入の目的

1. 会社の理念である「人材育成」の方針に基づいて社内・社外の人材育成に貢献するため。
2. 中小製造業の実態を肌で感じて頂くため。
3. 社会で求められる基本的な事項を学んで頂くため。
4. 学生さんの将来の方向性を判断するための一助として頂くため。

3. 実習の概要

1. 実習期間：8 月 11 日（月）～15 日（金）の 5 日間
2. 受入人数：1 名
3. 安全教育、社長講話（社会人に求められるもの、会社で働くとは）、工場見学、事務作業等

4. 得られた成果

学生さんに、中小製造業の現場を実体験してもらい、ものづくり企業の現場の実態を肌で感じて頂くことで、会社で働くこととは？ということを考える機会となり、今後の就職活動における判断のための材料を提供することが出来た。

5. 実習生からの声

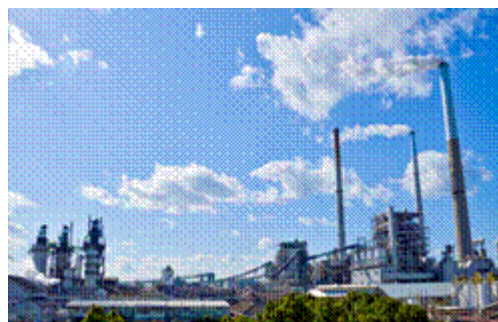
さまざまな視点から組織等を学ぶことができ、実習前とは仕事の印象が大きく変わり、より具体的なイメージができた。単純な仕事でも 1 つ 1 つの仕事には意味があり、その先には必ず人がいることを学べた。

6. 実習生へのお願い

中小企業ではリソースの問題もあり、計画通り実習が進まない、担当者が実務のために学生さんが放置されることがあります。そのあたりの事情を御理解の上で実習に臨んで下さい。

地域あつての成長

「受入れ事業所：化学品製造業」



地域のお陰様で2018年に100周年

当社は1918年に、それまで海外からの輸入に頼っていた「ソーダ灰」といわれるガラス等の製造に不可欠な工業原料を国産化すべく創業した化学メーカーです。現在では、多種多様な製造業向けの化成品、各種セメント、石油化学製品、さらには電子・機能材料などの高付加価値製品の製造まで、多彩な事業を展開しております。

2018年には100周年を迎えようとしており、これもひとえに、地域の方々や近隣企業の方など多くの人たちに支えられ続けてきた結果だと感謝しております。100周年のビジョンとして「挑戦と変革」を掲げており、社員一丸となって「人材の活力と化学の創造力で未来を拓く、社会と共鳴するものづくり企業」を目指し、成長を続けています。

【インターンシップ概要】

- ・導入目的 : (1) 地域社会への奉仕。
(2) 学生さんに働くことを身近に感じてもらい、将来の方向性を決める判断材料を提供する。
(3) 実務経験を通して、社会人としてのマナー、常識を身につけてもらう。
(4) 学校で習った理論が実際どのように使われるのかを知り、多面的に物事を見てもらう。
(5) 本社を、より多くの人に知ってもらう為のPR活動。
- ・受入体制 : 8月下旬～9月初旬に5日～10日間
- ・実習内容 : 安全教育・工場見学・分析・設計・プレゼンテーション
- ・導入効果 : 学生さんが、社会や工場のルールを学び、自分の専攻分野に近い部署での実習をする中で将来への具体的な判断材料を得られた。それと同時に当社の受入部署の社員も指導を行うことにより、刺激を受け、成長出来た。
- ・改善点 : 出来るだけ受入期間の長くとれる部署で学生さんを受け入れる
- ・要望 : インターンシップで何を学びたいのか、自分の中に1つゴールを持ってきていただきたい
- ・学生の声 : 「人」が皆優しい。仕事への嫌なイメージが無くなった。インターンシップの期間をもっと長くしてほしい、など。

【最後に】

今後もお世話になっている地域への貢献のため、インターンシップを積極的に受け入れます！

インターンシップの 受入を通して

「受入れ事業所：化学薬品製造業」



<当社研究所（柳井市）>

当社は平生湾に面した一角に主力工場をおく有機ゴム薬品等の化学薬品のメーカーです。

ゴム薬品における国内トップメーカーであり、主力製品である加硫促進剤は全国シェアの1/3を占めるなど、業界において確固たる地位を築いています。平成4年に柳井市に研究所を開設し、「世界に通用する技術」を目指し、研究開発にも力を入れております。

1. 受入目的

地域への貢献を目的として、平成20年から毎年2名程度のインターンシップの受入を実施しております。

2. 実施概要

実施期間：平成24年8月27日～8月31日の5日間

受入部門：研究所 2名

実施内容：研究業務全般（ゴム練りおよび加硫試験、分析・評価・解析業務、特許管理、法務研修）
製品の品質検査、他

3. 学生様への期待

加硫促進剤を開発する際の評価系（機器分析および実際の使用場面に近い条件でのシミュレーション試験）に係る業務の一旦を体験していただきました。その後、弊社工場にて、製品の検査業務の体験と工場見学を実施しました。

研究業務においては、与えられたテーマに関する情報をより多く収集し、実際に社会に貢献できる製品を生み出す必要があると考えます。そこには、個人のスキルももちろん重要ですが、より多くの人の力を借りることができるコミュニケーション能力も必要ではないかと思えます。企業の研究はチームで行いますので、様々な人を巻き込んで未知の可能性へ挑戦できる楽しさがあります。

わずか5日間の体験ですので、どこまで伝えることができたかわかりませんが、この体験を通して、ひとりでも多くの学生様が、企業での研究（できれば化学分野）に興味を持って下さり、今後の日本の技術を支える原動力になっていただけることを願います。

明確な目的を持ったインターンシップを

「受入れ事業所：化学樹脂素材メーカー」

(はじめに)

当社とABS樹脂の歴史は長く、日本国内で初めてABS樹脂の工業生産が始まった1963年からスタートしています。約50年間、製造・販売を続けてきているABS樹脂ですが、皆様はABS樹脂（プラスチック）をご存知でしょうか？「知らない」、「聞いたことがない」という方が、大半ではないかと思えます。“自動車から携帯電話まで”というフレーズで製品用途紹介を行うのですが、自動車のドアミラーやランプハウジング、携帯電話の筐体、家庭用ゲーム機の筐体、冷蔵庫の内箱、便座等、ABS樹脂は、皆様の身近にある物に用いられています。このインターンシップ体験を通じ、ABS樹脂がどのようにして作られているのか、また、どのようにしてお客様に求められた品質を作り込んでいるのかを、皆様に知って頂くことで、身近にあるABS樹脂や当社の製品により親しみを持って頂きたいと思っております。

(受入目的)

- ・地域社会への貢献、地域社会との交流
- ・就業体験機会の提供と当社の事をより多くの方々を知って頂く為の企業PR
- ・学生指導による担当社員の自己研鑽と社内活性化

(受入部署・期間及び実習内容)

①研究開発統括部：1週間

製品開発に関する実習を通じ、お客様の求める特性、高付加価値を追求する開発業務を体験

②生産技術グループ：1週間

製造技術向上に関する実習を通じ、原料から製品となるまでの工程管理業務を体験

(学生からの声)

- ・知識や技術だけでなく、働くことの厳しさと責任、人と人との連携の大切さ、一つ一つの動作の大事さを実感できた。
- ・これからの大学での研究活動や就職活動に意味のある研修であった。
- ・今までイメージできなかった“自分が働いている姿”の一例を体験できた。

(終わりに)

単なる見学と違い、自分でもものに触れてみる、操作してみることで、予想していた以上の成果が得られる体験になると思います。明確な目的を持って体験に臨めば、それ以上の効果が得られるはずです。得られたものを単なる体験で済ますのではなく、自分のものとして活かせる様に取り組んで下さい。

<実施事業所 報告>

インターンシップ体験を通じて 職業意識の向上を



<本社全景>

「受入れ事業所：計量機器メーカー」

弊社は、昭和 25 年 1 月に創業し、業界でもいち早くコンピューター技術の導入により計量機器のシステム化に取り組んでおります。さらに当社のモットーである『進取創造』を迫りし特許取得を武器に「はかりのシステムメーカー」として新製品開発を進め、今日に至っております。

インターンシップについては、平成 13 年を最初に専門学校生、大学生、高専生を受け入れ、最近では、高校生の職場体験学習も受け入れております。主な実習内容については、『社会人としてのマナー教育』と『現場教育(安全教育及びものづくり現場の現地学習)』です。

さて、インターンシップの受入目的は、インターンシップ生のより適切な将来の進路選択に役立てて頂きたいこと。次に日本の産業界を担っていく人材に育ててほしいこと。さらには、体験を通じて何かを学び取り自らの成長に結びつけていくための目的意識と前向きな姿勢を培ってほしいことにあります。

また、企業にとってのメリットとして次の点が考えられます。

1. 業務内容や経営姿勢をアピール出来ます。
2. 企業と学校の結びつきの強化が期待出来ます。
3. 学生を指導することにより職場での社員のリーダーシップの向上が期待出来ます。

次に、昨年のインターンシップ生の感想をご報告させていただきます。

1. 『挨拶』は、人とのコミュニケーション上重要であった。
2. 『体調管理』は、安全管理上重要課題であった。
3. 毎日 30 分の新聞購読の指導を受け、社会を見る考え方が変わった。

上記 3 件の重要性を述べられています。

短期間の就業体験ではありましたが、インターンシップ効果があったのではないかと感じております。さらに、『自分がやりたい仕事は何なのか。』、そして『何を頑張ればよいのか。』と述べられ、本人の気持ちの変化に気付かされました。

最後に、若い人たちが、インターンシップ制度の活用により各自の成長に役立ってほしいと願っております。

<実施事業所 報告>

やるべき課題を 見つけて欲しい

「受入れ事業所：化学品製造業」



<工場全景>

(受入目的)

当社設立の目的は、日本の化学産業に有機過酸化物を提供することを通して社会に貢献することにあります。有機過酸化物は高分子製造には必須の化学製品ですが、取り扱い方を間違えると大変危険性の高い化学製品のひとつであります。当社では、“安全確保は我々にとって最大の価値 (Safety is our Number 1 value)” であることを共通の認識としています。こうした危険物を如何にして安全に取り扱っているかを学生の方にも知っていただければと考えています。

(実習内容)

工場内ルールの注意事項、薬品等の危険性・緊急時の対処方法の安全教育を説明後、製造部の業務や各ユニットの仕組みと製造過程について工場見学を交えながら説明。また、技術部においては安全・品質・コストの最適化について、環境保安・品質保証部では製品・原料に問題はないかのチェック法・分析法の説明と体験。研究部では合成実験・用途実習を各部署業務の流れを説明しながら行い、約1週間各部門での研修を実施しております。

(期待・要望)

学生生活では決して学べない責任や仕事の重みを身をもって体験していただくことで、これからの学生生活も変わっていき、これからやるべき課題を見つけ将来進むべき方向の一つに役立てて頂かれることを期待いたします。

(学生からの声)

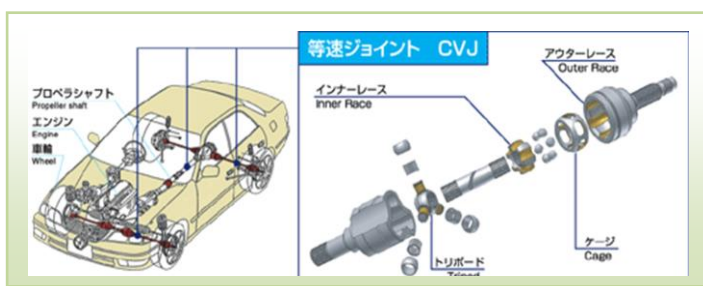
当社は、親会社が外資系の企業ということもあり、電話・メール・電話会議で英語も使用していることから、英語の重要性を認識され、これから英語力に力を入れていこうという声を多く聞きます。

ものづくり体験を通じて 進路への助けを

「受入れ事業所：
機械製作&生産システム提供会社」



弊社は、フォーミングマシン、等速ジョイント加工機を中心にして、お客様のニーズにきめ細かく対応し、オンリーワン技術で裏打ちされた最適生産システムを提供する会社です。ニッチ分野の塑性加工機と専用工作機械を設計・製作する会社ですので、機械設計・電装設計・機械加工・組立等機械の製作に関わる全ての部門があり、曲げ・組立・研削・切削・組立等幅広い分野での技術・技能を使って、最適な機械を製作しています。



◆ 受け入れについて

当社は「学生が在学中に自らの専攻、将来のキャリアに関連する就業体験で、国・県・企業・学校が一体となって将来を担う人材の育成を目指し、教育の一環として実施する」インターンシップの方針に賛同し、地元社会への貢献の一つとして、毎年、技術系の学生を、地元の工業高校生を3~4名、高専・大学生を2~3名受け入れしています。

指導する受け入れ側にも、指導や研修内容の整理、また活発な学生からの意欲面での刺激を受けている効果もでています。

◆ インターンシップの内容

「製品はどういう工程で具体的にどう製作されるのか」製造部門全般の研修に加え、机上の学習だけでなく実際の設計や加工・組立の実習時間を半分以上になるよう工夫しています。学校で学習してきた知識に加えて実際の製造現場ではどういう知識や技術・技能を必要とするのか、具体的に肌を感じていただくと同時に、ものづくりの成果や結果ができるだけ目に見えて出てくるよう指導し、ものづくりの難しさと同時に楽しさも体験していただくよう計画をしています。

◆ インターンシップに挑戦しようとする方へ

なにを学びたいのか明確な目標を持って参加してもらいたいことと、活発な意見や質疑等、できるだけ元気な行動や挨拶をしてもらいたいと期待しています。



<IF-60 マシン>

<実施事業所 報告>

インターンシップから学ぶ

「受入れ事業所：リサイクル事業」



<工場全景>

(目的)

当社は平成 19 年 4 月より本格稼働した廃プラスチックのリサイクル工場です。主に一般家庭から排出される容器包装のプラスチックを選別処理し、樹脂原料へ再資源化を行っております。

また、工場見学を積極的に受入れており、地域の方や各自治体の方々に「リサイクルの大切さ」や「資源の有効利用の大切さ」等を啓発させていただいております。

平成 19 年からインターンシップを受入れさせていただき、学生の方々にもリサイクルのことをもっと知っていただく場として、提供させていただいております。

(実習内容)

実習生の要望により、約 1 週間～2 週間程度実施しております。その中で、まず社会人としての一般常識、工場内のルール、リサイクルの仕組み等を講習し、実際の作業から機械管理、そのほかに各機械機器の構造なども学んでいただいております。また、業務作業や事務作業、その他に品質管理などもされた実習生もいます。基本的には、当社工場内を全て研修していただき、その中で各実習生が興味を持たれたところを集中して学んでいただくようにしています。

(期待・要望)

実際に実習をされるのは学生さんですが、逆に当社従業員も学ばせていただいております。「真面目に取り組んでいただき、謙虚に学ぼうとする姿勢」、また、「ひたむきに頑張る」実習生を教えていくことで、「学ぶことの楽しさや難しさ」、「仕事をするの大変さ」などを再度認識し、従業員への意識の活性化にもつながっています。したがって、実習にこられる学生さんには、真面目な方、謙虚な方、向上心のある方がこられることを毎回期待しております。

(学生からの声)

実習後に毎回レポートやお礼状をいただいておりますが、特に多い意見は、どの部署も関係なく「仕事の大変さを経験できた」というものです。その中で、「仕事することへの意識が変わった」「製造することはいろんな幅広い知識が必要と感じた」など仕事することの難しさや大変さを感じてくれたのだと思っております。

そのほかの意見として、「ISO について学べてよかった」「学校で習ったことが、実際に実習できてより詳しく知ることができた」「いろんな資格を取ってみようと思った」など、将来へ向けて自分達の目標を新たに持っていただけたと思っております。

今後も様々な意見を頂戴し、インターンシップの受入れや当社の仕事へ活かしたいと思っております。